

富山県小矢部市

平成29年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2018年3月

小矢部市教育委員会

例　　言

1. 本書は、2017（平成29）年度に富山県小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要報告書である。

2. 調査は、小矢部市教育委員会が実施した。ただし、平田・藤森遺跡（1）は有限会社毛野考古学研究所に、水牧遺跡隣接地は株式会社エイ・テックに業務支援を委託した。担当は次のとおりである。

　調査事務：大野淳也（生涯学習文化課主査）

　現地調査　常深　尚（有限会社毛野考古学研究所）：平田・藤森遺跡（1）

　岡田一広（株式会社エイ・テック）：水牧遺跡隣接地

　大野淳也：上記以外

3. 現地調査の作業員は、（公社）富山県シルバー人材センター連合会から派遣を受けた。

4. 本書の編集・執筆は大野が担当したが、平田・藤森遺跡（1）については常深氏に、水牧遺跡隣接地については岡田氏に執筆を依頼した。

5. 土層の色調については『新版　標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著、1967）に準じている。

6. 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

事業の概要.....	1
市内遺跡発掘調査等事業一覧.....	2
市内遺跡発掘調査等事業位置図.....	3
平田・藤森遺跡（1）.....	4
水牧遺跡隣接地（仮称　芹川遺跡）.....	8
報告書抄録.....	16

事 業 の 概 要

平成29年度の概要

2017（H29）年度に、小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は6件である。いずれも試掘調査で、市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助を受けて実施した。さらに、開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地城除外申請に伴う問い合わせ等は、合わせて80件以上あった。

調査の原因は、開発行為別にみると、個人の住宅建設、民間の住宅団地造成、公共事業に伴うものがある。事業の原因者は、個人3件、民間事業所1件、公共団体2件である。

今年度の調査で遺構や遺物が多く検出されたのは、小矢部市によるこども園建設事業予定地の平桜地内で実施した平田・藤森遺跡の試掘調査と、県営農地整備事業予定地の芹川地内で実施した水牧遺跡隣接地の試掘調査の2件である。

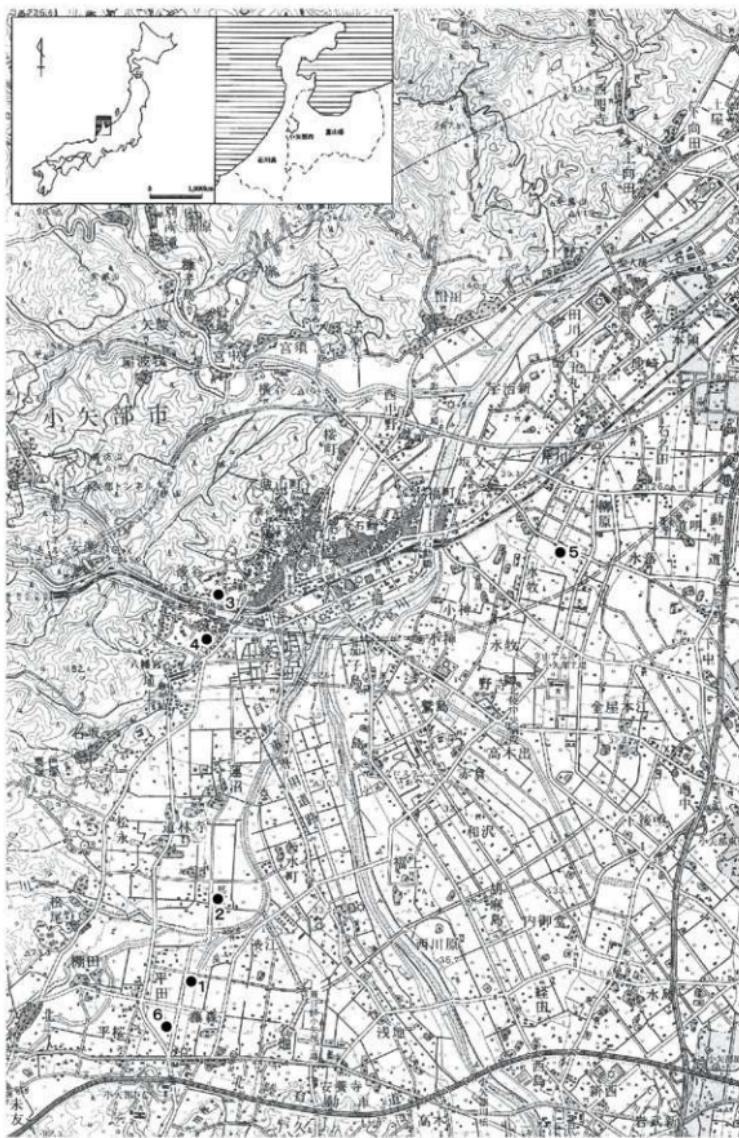
平田・藤森遺跡の調査では、竪穴建物とみられる方形プランや溝、土坑などの遺構とともに、古代を中心とする遺物が検出されたことから、小矢部市の担当課であるこども園と協議を行い、こども園の建物基礎等の工事により埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲について、平成30年度に本発掘調査を行うこととした。

水牧遺跡隣接地の調査原因は大規模な圃場整備事業であり、その対象地内での遺跡範囲の広がりを確認することを目的に、昨年に引き続き試掘調査を実施した。今年度は先行して工事が行われる農道や市道の拡幅予定地を中心として調査を行い、遺跡の範囲が概ね市道芹川板橋線を北限とすることを確認した。今年度の調査でも瓦塔等の遺物が出土し、宗教施設を伴う有力な集落等の存在が予想されることから、平成30年度にもその範囲や内容を把握するために未調査区域の試掘調査を継続して実施する予定である。

市内遺跡発掘調査等事業一覧

No.	遺跡名	所在地	調査対象面積 (無削面積)	調査種別	調査期間	調査結果	調査原因
1	平田・藤森遺跡 (1)	平塚6055外	8, 581m ² (360m ²)	試掘調査	29. 5. 8～ 5. 19	竪穴建物、溝、土坑、ビット (奈良時代)検出。青生土器、土師器、須恵器、中世土師器出土。	統合こども園建設
2	竹倉島遺跡	長145-2	496m ² (8m ²)	試掘調査	29. 6. 9	遺構、遺物確認されず。	個人住宅建設
3	後谷条里遺跡	後谷字中ノ坪 500-68外	279, 69m ² (5m ²)	試掘調査	29. 7. 19	遺構、遺物確認されず。	個人住宅建設
4	大勢町遺跡	埴生字北反戻 1688外	2, 304m ² (60m ²)	試掘調査	29. 7. 20	遺構確認されず。土師器、中世土師器出土。	住宅用地造成
5	水牧遺跡隣接地	芹川912外	13, 650m ² (311. 1m ²)	試掘調査	29. 9. 5～ 12. 4	溝、土坑検出。土師器、須恵器、瓦器、珠洲鏡、越前焼、白磁、近世陶磁器出土。	県営農地整備事業 (圃場整備)
6	平田・藤森遺跡 (2)	平塚6046-2	499m ² (10m ²)	試掘調査	29. 10. 27	遺構、遺物確認されず。	個人住宅建設

市内遺跡発掘調査等事業位置図



(1:25,000)

ひらた ふじのもり
平田・藤森遺跡 (1)



図1 調査位置図 (1 : 5,000)

1. 調査の概要

調査は蟹谷学校区統合こども園建設に先立つ試掘調査であり、現地調査は5月8日から19日かけて行なった。幅1m、長さ20mの試掘トレンチを18本設定し、重機により表土を掘削、人力によって平断面の精査を行なった。最大掘削深度は110cm、掘削面積は合計360m²である。

基本層序は図3のとおりである。大きくなっているのは調査対象地の南東側が微高地があり、その縁辺を南西から北東方向への低地が広がる(図2)。地山は灰白色ないし青灰色の粘質土(VII層)で、低地では遺物包含層である黒色土(VI層)の堆積が確認される。黒色土の上部では部分的に洪水起源の細砂・シルト(V層)がある。また対象地の南東隅には、圃場整備時の造成土より下位で、南西から北東方向への旧河道が確認され、同所は地山が大きく削られている。黒色土は3層に細分され、そのうち上位2層に遺物が多く含まれる。



図2 トレッセ位置図 (1 : 2,500)

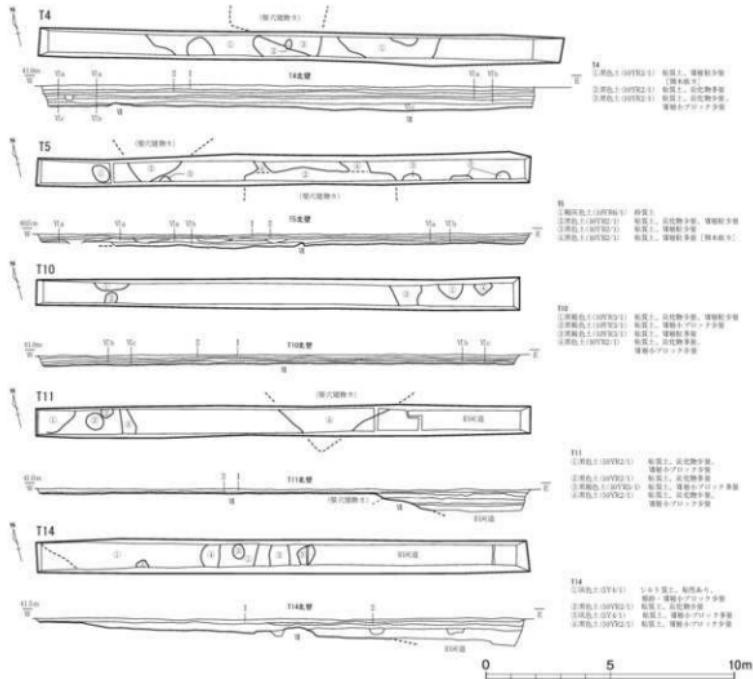
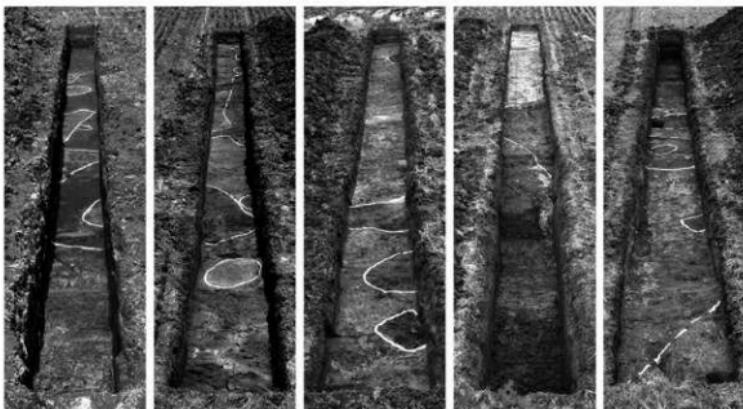


図4 T4・T5・T10・T11・T14 平断面図 (1:200)



遺構検出状況（左から T4, T5, T10, T11, T14）

2. 遺構

調査対象地の南東部にはⅦ層に達する旧河道があり、時期的には近世以降と考えられる。旧河道周辺にはⅦ層を地山とする微高地が広がり、その北西縁には黒色土（VI層）の堆積する浅い埋没谷の地形が南西から北東へ続いている。遺構は主にⅦ層上面で検出され、堅穴建物の可能性がある方形プランが4棟、溝4条、土坑・ピット43基などがある。遺構の多くは、検出面の出土遺物から奈良時代と考えられる。この他に、倒木痕とみられる環状プランが6基検出された。堅穴建物は、規模が分かることはT5で一辺約6.0mである。軸方位に2種ある。T2の西端の土坑（90×70cmの隅丸長方形）は、壁面が強く焼け、内側に炭化物が多量に含まれた焼土坑である。何らかの焼成坑であろうか。この土坑を含むT2西側の遺構はVI層中で検出されており注意を要する。VI層が厚く堆積する地点では、VI層とVII層の2面の遺構面が存在する可能性がある。

3. 遺物

遺物は弥生土器、奈良・平安時代の土師器・須恵器、中世の土師器、木製品などがあり（図5）、遺構検出面ないし黒色土（VI層）から出土している。主体となるのは奈良時代の遺物である。黒色土中の遺物は、微高地に近い部分で出土量が多い傾向にある（T8・T12・T16）。奈良時代の遺物

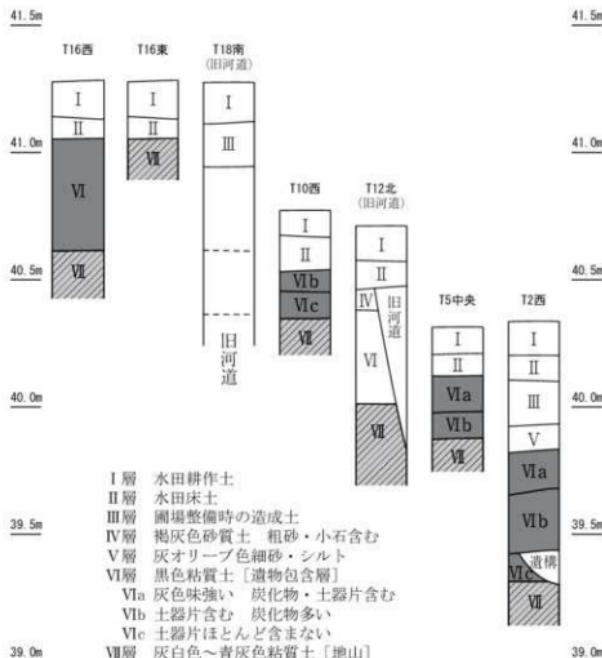


図3 基本層序 (1:20)

には、土師器杯・高杯・甕・壺、須恵器蓋・杯・甕・壺・瓶がある。土師器杯は内黒のもの、高杯には赤彩(1)のものがある。土師器甕の把手(2・3)のうち、2は上面に刻みを施す。須恵器は蓋(4・5)、杯(6~12)、壺(13)、瓶(14)がある。中世の土師器は小型の皿が出土している(15~19)。すべて非クロコ形で、中世前期のものである。19には刷毛状工具による内面調整がみられる。18にはわずかに油煙の痕跡が残り、灯明皿と考えられる。20はT1のVI層中から出土した棒状木製品である。先端が炭化し、火鑽棒の可能性がある。

4.まとめ

調査対象地の旧地形は、南東側を中心とする微高地と、北西側で黒色土を伴う浅い埋没谷とに分かれている。北西側の隣接地における平成6年度調査(図1)が微高地上であったことから、埋没谷の規模は最大でも幅100mほどである。平成6年度調査で検出された竪穴建物・掘立柱建物址、条里地割の坪境溝、弥生時代の溝などとあわせ、調査地周辺には主に弥生時代、奈良時代を中心とする古代、中世前期の遺構が広がることが想定される。

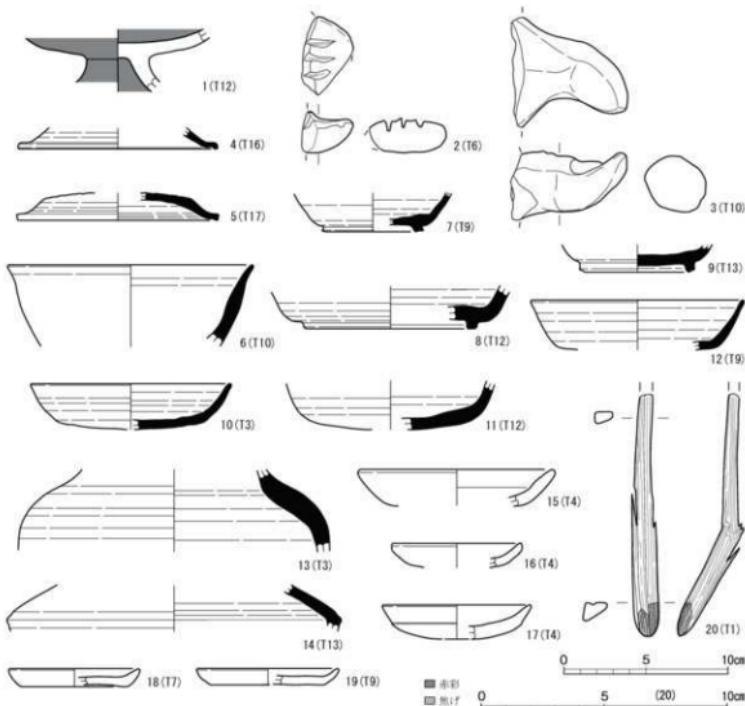


図5 出土遺物 (1:3, 1:2)

水牧遺跡隣接地【仮称 芹川遺跡】



図1 調査位置図
(1 : 5,000)

1. 調査の概要

今回の調査は、県営農地整備事業（圃場整備）に先立つ試掘調査である。調査対象面積は13,650m²で、調査面積は311.1m²である。現地調査は平成29年9月5日～同年9月16日および平成29年12月4日に、実働8.0日で実施した。

調査対象範囲の南側隣接地では、平成28年10～11月に試掘調査を実施している。その結果、古代の遺物を含む包含層が北側へさらに延びることを確認した。今回の調査では、その包含層の広がりを確認するため、北側の市道付近までを調査範囲とした。トレンチ番号は平成28年調査から連番としT51から割り振った。標高は約25.3～26.8mである。調査は幅1.0mで長さは20・10・5mの試掘トレンチを19本設定した。重機によって表土および堆積土を掘削し、人力により精査した。その結果、市道に近い北側のトレンチであるT68から遺物包含層および瓦塔を検出したため、市道の北側を追加調査し、平成29年12月に試掘トレンチを3本設定した。調査最大掘削深度は81cmである。

基本層序は、I層：黒褐色シルト質細粒砂（水田耕作土）、II層：黒褐色細粒砂質シルト（古代遺物包含層）、III層：暗褐色中粒砂（地山）、IV層：にぶい黄褐色中粒砂～礫層である。

I層とII層との間には間層がある箇所が部分的にあるが、基本的には床土や過去の圃場整備に伴う造成土である。II層は遺物包含層で、古代の遺物が出土した。分布範囲は調査地区南東端部および北側（T55・58～72）で確認でき、厚さは5～20cmを計る。なお、市道より北側のT70～72ではII層からの遺物は出土しなかった。遺構検出面はIII層（地山）直上である。

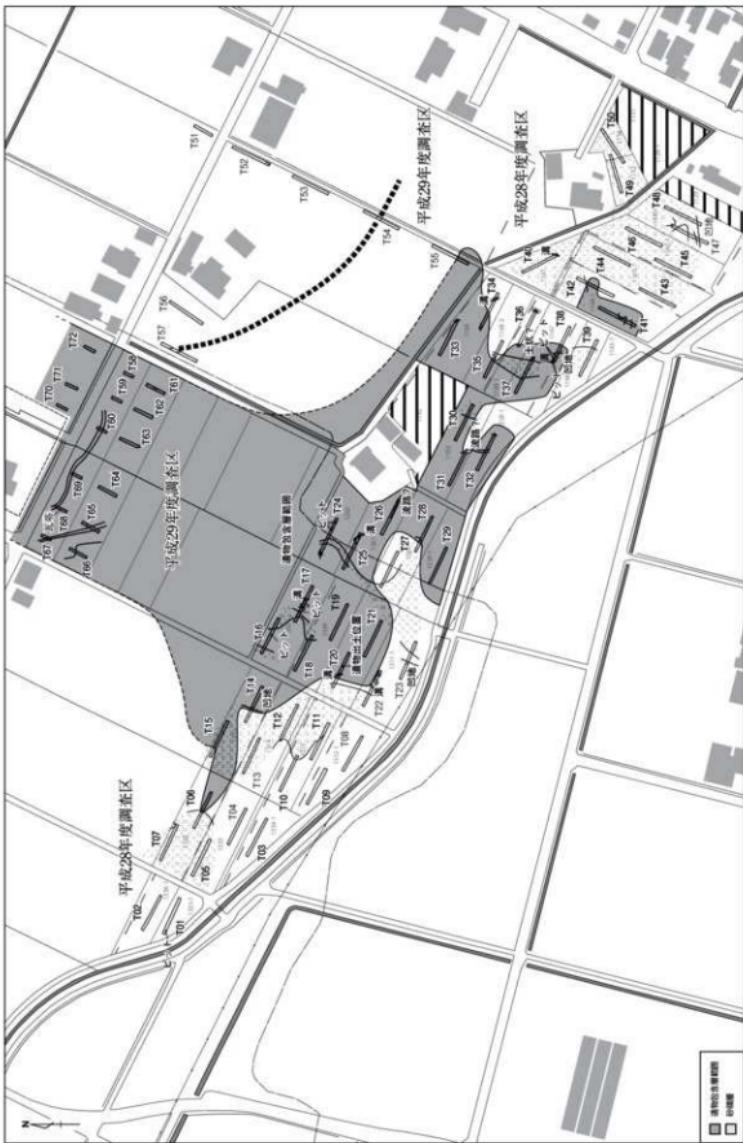


図2 トレンチ位置図 (1:2,500)

2. 遺構

遺構は、溝、土坑を検出した。溝はT 54・57・60・61・65～69で検出した。T 54・57で検出した溝は、アメリカ軍が昭和21年に撮影した航空写真に写っており、現代の溝である。T 65・67で検出した溝は現代のものである。土坑はT 37で検出し、覆土は黒褐色シルトである。



図3 基本層序 (1 : 20)

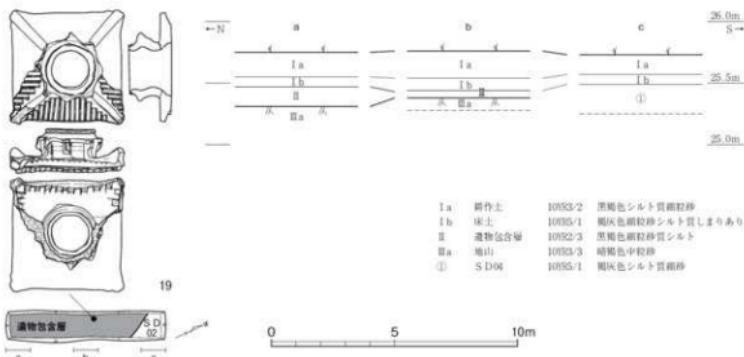


図4 T 68平面図・断面柱状図 (1 : 200, 1 : 40)



T 68瓦塔出土状況 (北東)

T 68瓦塔出土状況 (北東)

3. 遺物

出土遺物には、土師器・須恵器・珠洲・越前・白磁・瀬戸美濃・越中瀬戸・伊万里・九谷・砥石・瓦塔がある。古代の遺物はⅡ層から出土した。図示した遺物は、T18から出土したものである。土器類は瓦塔周辺から出土した。

1～15は土師器である。1～11は鉢である。1～7は通常甕として報告されているが、瓦塔周辺より出土しており二次被熱もしていないことから、仏具としての使用した可能性があるため、今回の報告では鉢とした。1は口縁端部が内湾して立ち上がる。口径は21.6cmである。2は口縁端部が上方へ延びる。口径は20.5cmである。3は口縁端部がやや外上方へのびる。内外面にカキメを施す。口径は20.0cmである。4は口縁端部が内側へ屈曲する。口径は19.0cmである。5は口縁端部が短く上方へ延びる。口径は18.6cmである。6は口縁端部が外上方へ延びる。口径は17.9cmである。7は口縁端部がやや内湾して立ち上がる。口径は17.5cmである。8は稜楕型である。口径は20.0cmである。9・10は口縁部が内湾する。9は口径17.0cm、10は口径12.4cmである。11は鉢の底部である。外面に墨書「口」がある。12は楕の口縁部である。外面に油煙が付着する。口径11.7cmである。13は甕の底部である。内面にススが付着する。14は高台が付かない皿である。口径は11.6cmである。15は高台が付く皿である。口径は13.0cmである。

16～18は須恵器である。16は高台が付かない杯である。外面に油煙が付着する。口径12.0cmである。17は高台が付く杯の底部である。18は杯の口縁部である。外面に油煙が付着する。

19～21は瓦塔である。19・20は屋蓋部で半截竹管で瓦葺きを表現する。19は須恵質で、幅18.5cm、高さ7.2cmである。軒先部は垂木を約1.0cm間隔で削り出す。軸部はロクロ整形である。20は土師質である。21は軸部である。斗拱を表現した縦位の粘土帯がある。斗拱の下部には台輪を表現した粘土帯の痕跡がある。

4.まとめ

今回の試掘調査では、平成28年度調査区から続く古代の遺物包含層を、調査対象地の北西側で確認した。遺物出土量はT18以外はあまり多くない。また、検出した遺構は近現代のものである。

T18ではⅢ層地山直上のⅡ層中から、瓦塔、土師器鉢、油煙が付着する土師器楕・須恵器杯等が出土した。この遺物群は仏教祭祀的様相が強く、時期は9世紀代である。平成28年度調査地区でも円面鏡や瓦塔が出土しており、8世紀後半から10世紀頃までの仏堂等をもつ有力な集落の存在が想定できる。

遺物包含層と同様の黒褐色土は市道の北側にも延びているが、遺物の出土は希薄で遺構も検出できなかった。このため、遺跡の範囲は概ね市道を北限とするものと推定できる。

T18

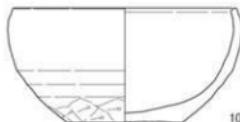
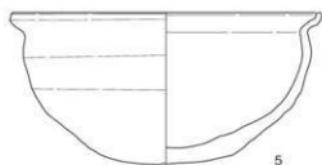
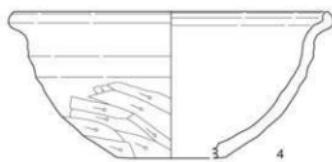
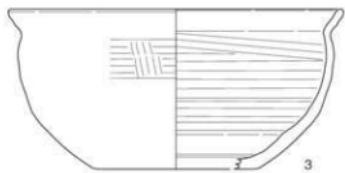
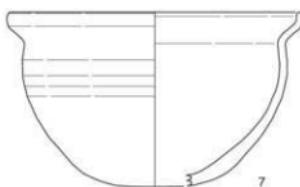
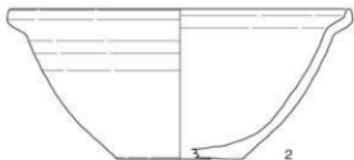
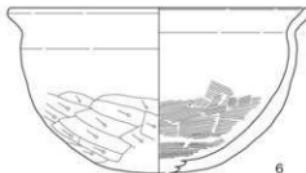
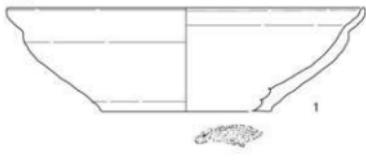
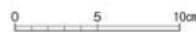


图5 出土遗物〔1〕 (1 : 3)



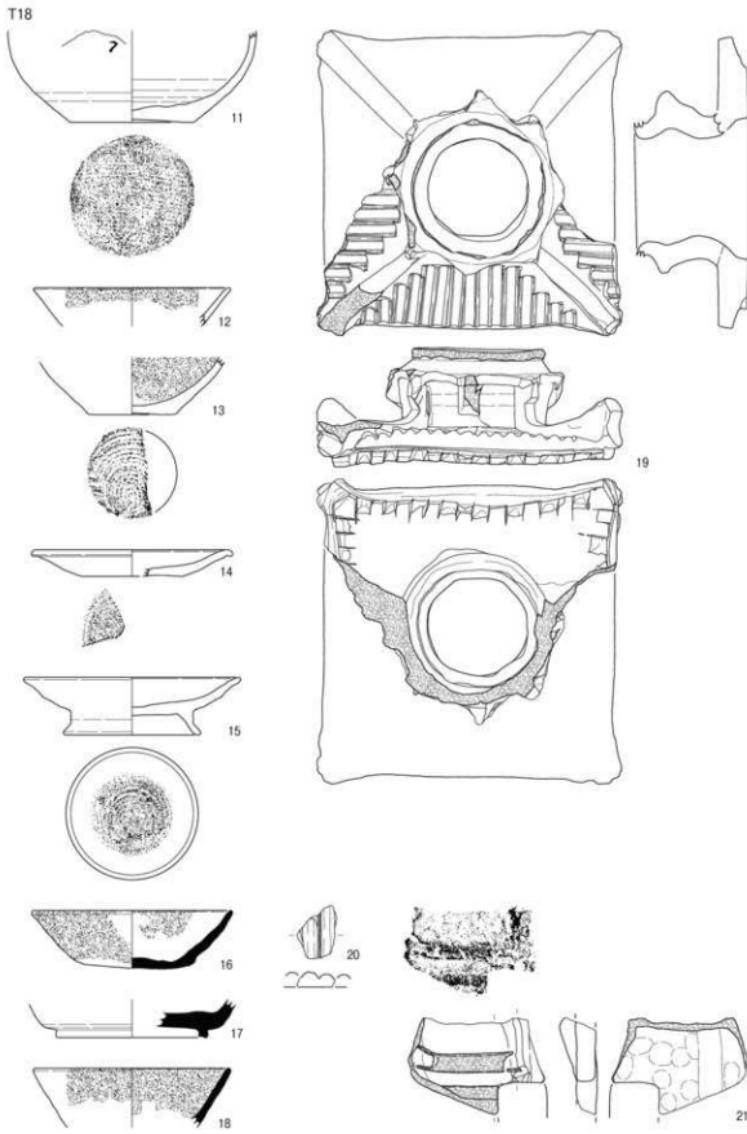
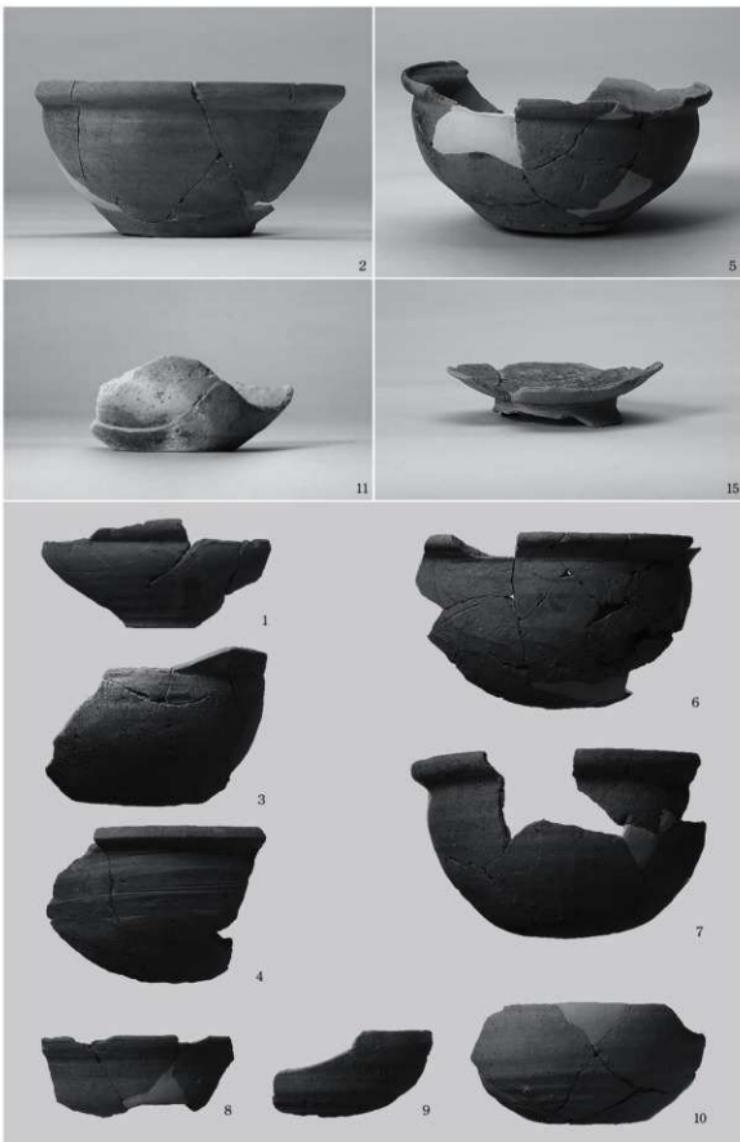


図6 出土遺物〔2〕 (1 : 3)

0 5 10cm



出土遺物〔1〕



出土遺物〔2〕

報 告 書 抄 錄

ふりがな	へいせいにじゅうきゅうねんどおやべしまいぞうぶんかざいはつくつちょうさがいほう						
書名	平成29年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報						
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第80冊						
編著者名	大野淳也 常深尚 同田一広						
編集機関	小矢部市教育委員会						
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号						
発行年月日	西暦2018年3月30日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 世界測地系	調査期間	調査対象 面積 (m ²)	調査原因
ひらた・みのりのもりいせき 平田・藤森遺跡	小矢部市 平桜 ほくろう 6055外	16209	127	36° 38' 10" ~ 36° 51' 12"	20170508 ~ 20170519	8.581	総合ごども園建設
みずまきいせきりんせつち 水牧遺跡隣接地 (仮称 芹川遺跡)	小矢部市 芹川 せりかわ 912外	16209		36° 40' 37" ~ 36° 53' 46"	20170905 ~ 20171204	13.650	県営農地整備事業 (圃場整備)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
平田・藤森遺跡	集落	古代	竪穴建物、土坑、溝、 ピット	弥生土器、土師器、須恵器、中世土師器			
水牧遺跡隣接地 (仮称 芹川遺跡)	集落	古代	土坑、溝	土師器、須恵器、瓦塔、珠洲、越前、 白磁、近世陶磁器、砾石			

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第80冊

富山県小矢部市

平成29年度 小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 平成30年3月30日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市本町1-1

TEL 0766-67-1760

印 刷 ツッププリント

